

(別紙 12) 地元住民(被災者)への呼びかけ

## ボランティアと接する場面で感染を拡げないために

災害から立ち直るためには支え合いがとても大切です。気兼ねなくボランティアの力をうまく活かしてください。その際、新型コロナウイルスのリスクを下げるため、以下の留意点をご確認ください。

### <復旧・復興に向けた生活の中で>

#### 〇日ごろからの取り組み

##### ●体調の記録

毎朝夕に体温測定し、体調を記録しておきましょう。

37.5℃以上の発熱、のどの痛み、鼻水、鼻づまり、咳、味覚・臭覚の異常、腹痛、下痢、吐き気などが有る場合は、外出せずにかかりつけ医や避難所の医療班に連絡し、適切な処置を受けましょう。

体調が優れない場合はボランティアが来る当日であってもキャンセルの連絡を入れてください。

迷惑を掛けるからと体調不良を押しつけてボランティアを受け入れたりイベントに参加することが、感染の拡大に繋がる可能性があります。

##### ●飲食を伴う/大人数/長時間におよぶ飲食の自粛

飲酒を伴う複数人との会食や大人数/長時間の食事会は控えましょう。

(同居家族等を除く)

##### ●3密・リスクのある場所の回避やマスクの徹底

3密が生じるリスクが有る場所への外出をできるだけ避け、どうしても必要がある場合は必ずマスクをしましょう。

##### ●ワクチンの接種

新型コロナウイルスワクチンは、積極的に3回または4回接種しましょう。

加えてMRおよび破傷風ワクチン接種歴を確認しましょう。

MRワクチンを2回接種していない場合は追加接種を検討しましょう。

破傷風ワクチンが未接種、あるいは接種から10年以上経過している場合は、ケガしたときのリスクを下げるために、接種しましょう。

## ＜ボランティアを受け入れる/イベント等に参加する時＞

### ○作業現場/イベント会場での注意点

#### ●間合いの確保とマスクの着用

感染リスクを下げるため、できるだけ他者とは距離を 2m 以上開けましょう。2m 以内にいる場合、会話をするときは必ずマスクを着用しましょう。

夏は熱中症予防との兼ね合いでマスクを外す必要も出てくる可能性があります。その場合は 2m 以上の間合いの確保を徹底しましょう。

マスクには不織布、布、ウレタンなどの種類がありますが、できる限り不織布マスクを準備してください。（飛沫の補足率が最も高いため）

フェイスシールド、マウスシールドは単独で使用しても飛沫拡散防止効果も飛沫吸入防止効果も非常に低いので、使う場合は不織布マスクと併用しましょう。

#### ●室内の場合は換気の確認

作業場所/イベント会場が室内の場合換気されているか確認しましょう。換気が充分でない場所とを感じる場合は改善しましょう。

窓がある場合は風の流れることができるよう 2 方向の窓を常時開放しましょう。それが無理な場合でも 30 分に 1 回、5 分間程度全開にしましょう。窓がなくドアが 1 つの部屋の場合、換気扇や扇風機、サーキュレーターを併用しましょう。

#### ●手指消毒の徹底

作業に入る/イベントに参加する前、軍手や手袋を脱いだ時、休憩/昼食時、作業終了時、多くの人に触れる共用部分に触った後などはこまめに石けん流水手洗いまたはアルコール手指消毒を行いましょう。

#### 【多くの人に触れる共用部分の例】

テーブル、椅子の背もたれ、ドアノブ、電気のスイッチ、電話、キーボード、タブレット、タッチパネル、蛇口、エレベーターのボタン、活動に用いる備品・器具 等

また、参加中は可能な限り手で首から上（目鼻口）に触ることは避けましょう。

#### ●接触機会の削減

作業の打合せはグループリーダーに限るなど、ボランティアとの接点をできるだけ限定する工夫をしましょう。

## ●疲労・熱中症の対策

特に夏場にマスクを付け続けると熱中症のリスクがあがるので、こまめな休憩を取りましょう。(ボランティアの方々も休みやすいように、みなさんが率先して休憩を取ってください)

マスクを外して休憩する際には、2m以上の間合い確保を徹底しましょう。

## ●体調不良を感じたら

直ちにボランティアグループのリーダーに報告し、他者との間合いが確保できる換気の良い休憩場所へ移動して、体調の回復を待ちましょう。

体調が回復しない場合は、ボランティアリーダーと相談して、作業やイベント参加を切り上げる/医療機関で受診する、等対応しましょう。

## ○休憩/昼食時

### ●間合いの確保と換気

休憩や昼食中は油断して人との距離が近づいたり、近距離でもマスクなしで会話をしてしまうことがあります。

2m以上着座位置を離す、可能な限り向かい合って座る事を避ける、休憩/食事前に石けん流水手洗いまたはアルコール手指消毒を行う、食べる時はしゃべらない、しゃべる時はマスクを必ず付ける、室内の場合は換気を徹底する等、休憩・昼食前に必ず注意点を確認しましょう。

大皿からの取り分けやトング、食器、箸、グラス等の共有や回し飲みはやめましょう。休憩時に果物や飲み物の差し入れがする場合、特に気をつけましょう。

## <作業後/イベントから帰ってから>

### ○作業後

#### ●体調の記録

毎朝夕に体温測定し、体調を記録しておきましょう。

37.5℃以上の発熱、のどの痛み、鼻水、鼻づまり、咳、味覚・臭覚の異常、腹痛、下痢、吐き気などが有る場合は外出せずにかかりつけ医や避難所の医療班に連絡し、適切な処置を受けましょう。

#### ●感染判明時の対応

もし新型コロナウイルス陽性と判明した場合は感染拡大防止のために保健所からの聞き取りに協力しましょう。もし作業中/イベント参加中に感染が拡大し

ていた可能性があるとは判断された場合は、ボランティアが所属していた団体/災害ボランティアセンターに連絡を入れましょう。